

授業実践の振り返り

補習授業校名：デトロイト補習授業校

指導者： グリーン 方子

授業実施： 2021 年 11 月～12 月

学年・教科：小 6 国語・算数・社会

単元名：算数「情報通信技術と進化や利用について」国語「メディアと人間社会」「大切な人とつながるために」

時	内容	活動	有効であった点	改善を要する点	子どもたちの反応
1	算数「情報通信技術の進化や利用について調べよう」	データからどんなことが分かるだろう - 情報通信技術や利用について、思いや気づきを取り上げる。 - データ 1 を見て、気づいたことを発表し合う。 - データ 2, 3 を見て、気づいたことを発表し合う。 - 問題を提起し、根拠に基づいて自分の考えを説明をする。	- 教科書を開かせず、必要な資料やデータをスライドに載せて、前を向かせて授業に参加をさせた。→スライドに注目し、集中をしている児童が多かった。 - 授業スライドに児童の意見を書き留め、全体で共有する。 「情報通信技術」という言葉の理解に苦労していたので、児童の聞きなれたカタカナ英語と英語に変えて、説明をした。 「メディア」がどのように身近な生活にあるかを考えさせるために、話題を提示して、(旅行計画を立てる時にどのような手段で情報を得るか) メディアについて考えさせた。 - 振り返りスライドの取り組みが悪かったので、授業で取り上げたキーワードを記載し、児童の考えを導き出すよう工夫した。 - 学習活動に支援が必要な児童の保護者にはあらかじめ授業の流れや課題を連絡をし、家庭での支援を依頼した。→他の児童との同じように授業に参加、めあての達成の手立てのなった。	- 児童の振り返りのスライドへの取り組みが悪かった。(半数くらい) →授業開始の週の前の週までに、児童への説明と作成を呼びかける。また授業者が児童数のスライド作成を行っておくなどのアクセスを簡単にしておくが良い。また、自宅でタイプ打ちが出来ない児童には印刷をしたものをあらかじめ配布しておく。 「いち早く情報を知るために利用するメディア」と「信らいてるために利用するメディア」のデータを比べた時、問題の意味を十分に理解していない児童がいたようだった。 - 気づいたことを発表する時に、日本語の目標「～から～と考えます。」などの文型を使って、伝えることが出来ていなかった。→例文をボードに貼って、それを参考にしながら、意見を言えるよう声を掛けると良い。	- 資料の読み取りから、多くの意見が出ていた。また、なぜそうなのかなどの根拠となる理由を述べられる児童も数名いた。 「情報」の話題を身近に感じられる児童が多く、身近に起きた経験や知識をもとになった意見が数多く出ていた。
	家庭学習課題	- 国語「メディアと人間社会」と「大切な人と深くつながるために」の音読 - グーグルスライドに自分の考えを書き留める。			
2	国語「メディアと人間社会」	「メディアと人間社会」の筆者の考えを読み取ろう - リード文から、これからの社会で大切だと考えることを共有する。 - 説明文の構成を確認する。 - ワークシートを利用し、内容を理解する。 - 筆者の考え（主張）を確認し、自分の考	当初の計画では、第 2 次と第 3 次の授業を同日に行い、それぞれの説明文の筆者の考えの違いに近づくようにしたが、第 1 次で出てきたデータの「メディア」と第 2 次で取り上げられた説明文のメディアとの関連性を強める	- 授業前に家庭学習になっていた説明文の音読が十分に取込めていなかった。 - 自分の考えを伝える時に、日本語の目標となっていた「～することがよいと考えます。」「～から～と考えます。」などの文型を使って	- メディアという言葉が難しく考えている児童が多かったようだが、第 1 次で学習したデータの読み取りで出てきた内容を思い出させることで、説明文の内容理解度が高まったようだった。 - ワークシートの書き込みも、グループ

		えを書く。	ために、第1次と第2次を同日に行うようスケジュールを変更をした。 →「メディア」に関するデータを読み取った後に、関連する説明文を読むことで児童の内容理解が高まった。 ○当初の授業計画では、それぞれの説明文に1時間（45分）で終わらせるようにしていたが、家庭学習の音読の取り組みが悪かったので、それぞれの時間に30分追加して授業を行った。 →時間に余裕が出来たことで、児童が説明文を読む時間が与えられ、ワークシートの取り組みが良かった。また、模範解答を提示して答え合わせをすることもできた。 ○効率的、また構成と要点の理解を高めるためにワークシートを使った。また、難しい言葉にはルビを付けた。 →児童は使いやすく、書き込みはよく出来ていた。 ○3、4名のグループでワークシートを取り組ませた。 →日本語力が学年レベルに達していない児童でも、グループで協力してワークシートに記入し、内容理解に近づけた。	伝えることが出来ていなかった。 →例文をボードに貼って、それを参考にしながら、意見を言えるよう声を掛けると良いのではないか。	での取り組みとあって、ゲーム感覚で楽しく協力して活動をしていた。
	家庭学習課題	・国語「メディアと人間社会」の音読 ・グーグルスライドに自分の考えを書き留める。			
3	国語「大切な人と深くつながるために」	「大切な人と深くつながるために」の筆者の考えを読み取ろう ・説明文の構成を確認する。 ・ワークシートを利用し、内容を理解する。 ・筆者の考え（主張）を確認し、自分の考えを書く。 ・「メディアと人間社会」の主張と比べる。	○第2次との活動内容と同じ流れだったので、有効であった点が重複する。 ○前時との学習活動の流れと同じだったので、児童の取り組みが良かった。	○第2次との活動内容と同じ流れだったので、改善する点も重複する。 ○2つの筆者の考えを比べることに苦労をしていた。 →授業で十分に上げることが出来なかったため、家庭で復習するワークシートなどを準備すると良かった。 ○意見交換会のために自分の考えを書き込んでくる児童が少なかったが、これまでの流れを理解して	○前時と同じグループだったので、メンバーと協力し、ワークシートへの書き込みはよく出来ていた。 ○「コミュニケーション」に興味を持った児童が多かったので、筆者の考えと結び付けた自分の考えを持っていた。
	家庭学習課題	・国語「大切な人と深くつながるために」の音読 ・グーグルスライドに自分の考えを書き留める。 ・→2つの教材文から、自分の考えをまと			

		め、次回の話し合いの準備をする。		いる児童は、考えを発表することが出来ていた。	
4	国語 「メディアと人間社会」と「大切な人と深くつながるために」	「これからの社会でどう生きていくか」について、話し合う ・グループにて、友達の意見を聞き、自分の考え伝える。 ・全体で、グループで出た意見や、自分の意見を伝える。 ・世界の動き（SDGsの活動）を知り、より広い視野から未来に向けて考える。	○授業の総まとめとしての課題に沿う意見が出ていた。 ○グループでの意見をまとめる際に使ったジャムボードは、以前に使ったことがある児童も多く、円滑に進められていた。また、それを全体で共有する際にも、タイプされたものがスクリーンに映し出されることで、児童の意見が一目で分かり、効果的だった。 ○あらかじめ授業の流れをスライドにまとめることで、授業がスムーズに進められた。 ○SDGsの導入動画に、興味関心を持っているようだった。 →社会でこの単元を学習する際、既習内容として理解されやすいのでないか。 ○パッドレッドを書き込み課題が終わっていない児童がいたので、次週にコンピューターを教室に持ち込み、教室の片隅で、書き込みが出来るようにした。 →ほとんど全員が意見を書き込んだ。	○学習振り返りのスライドへの書き込みが出来ていない、準備が出来ていない児童は、意見を伝えることに苦労をしていた。 ○コンピューターやインターネットの不具合があり、グループの意見をタイプすることが出来ないグループはノートに書き込むなどで対処をしたが、児童は残念がっていた。 ○全体での意見交換で、もう少し時間が必要だと感じた。児童の意見からもう少し深い考えに導くような時間を取りたかった。 ○最終成果物として、個々の意見を、作文用紙に「書く」課題などあっても良かった。それを文集などにまとめるなども出来た。	○それぞれの班にコンピューター1台を提供し、手元で資料教材を見ながら、または意見をタイプしながら進めていく活動に新鮮さを感じ、楽しそうに活動をしていた。 ○これからの社会問題（メディアやコミュニケーション）に沿った自分の考えを持った意見が出ていた。 ○授業が終了後、他のクラスで作成した自分の考えを書き込んだパッドレッドを共有したが、他の児童がどのような意見を持っているか興味関心を持って読んでいた。 ○Gスライド、ジャムボード、パッドレッドなどのネットのアプリ使用することを興味を持って学習活動をしていた。
	家庭学習課題	・SDGsについてのビデオを見る。 ・国語「プログラミングで未来を創る」の音読 ・学習のまとめとして、自分の考えをパッドレッドにまとめる。			
伸ばせた力、子どもの変化、保護者の反応など ○自分の考えを深めるために、学習振り返りのスライドに考えを書き留め、グループや全体で意見交換、そして、最終の意見としてパッドレッドに意見を投稿する活動によって、自分の考えを深めていく活動が出来た。 ○課題意識を持って、主体的に学ぶ活動が出来た。 ○日本語力に課題がある児童でも、グループ活動によって協力し、授業めあてに近づけていた。 ○日本語力に課題がある児童の保護者に、授業内容や課題の説明を事前に行うことで、家庭での支援が思うように得られた。そのことで、児童がめあてや課題を達席出来た。 ○これからの社会問題や課題に対し、自分の考えを持ち、それを他と共有し、考えを深めることが出来た。 ○ネットアプリの技術を使い、それを使って、考えをまとめたり、共有することが出来た。					
所感 ○学習振り返りスライドは、毎回の学習の振り返りを書き込み、蓄積し、意見交換会の準備のためにとても有効的だった。しかし、児童の半数ぐらいしか課題を終わらせていなかったことは、今後の課題として考えていきたい。 ○国語のワークシートは、学習めあてを達成するために、とても有効的だった。 ○コロナ禍で始まったネット授業で、児童はネットアプリやコンピューター機材を使った学習に興味関心を持ち、その技術も高いことが分かった。これからの授業活動にも多く取り入れる必要があると感じた反面、授業では、インターネットや機材の不具合が数回発生したので、代替え案も常に必要だと感じた。 ○教科横断型の授業の利点をして、児童は、他教科の既習内容の知識をすぐに活用し、関連付けて自分の考えを深めることは、とても良かった。					

